非核・いしかわ

事務局／石川民医連労働組合気付
〒920-0848 金沢市京町 28-8　TEL076-251-0014　Fax 076-251-3930
ゆうちょ口座 00760-0-15689　年会費 3000 円（全国紙代含む）

2018 年 9 月 20 日　月刊第 242 号　発行／非核の政府を求める石川の会

非核五項目
① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

核兵器禁止条約への署名は 60 か国、批准は 15 か国（9 月 4 日現在）

1 面　今秋の政局と沖縄県知事選「主張する権利」を行使しよう　五十嵐正博
3 面　平和で誇りある豊かな沖縄を　仲山忠克
4 面　非核石川の会 30 周年祝賀会の報告
5 面　すべての自治体で「原爆ポスター展」を　神田順一
6 面　8 年目の福島　フィールドツアー「視る・聴く・心に刻む」　川本浩平
7 面　白山市で「原爆と人間展」　宮岸美苗
〈独標〉ハルモニ・ハラバイ　山田英美子
編集室より
8 面　石川の地域点描 シリーズ　中西　優
絵手紙コーナー　竹味恭子

今秋の政局と沖縄県知事選
「主張する権利」を行使しよう
代表世話人　五十嵐正博

いつからこうなってしまったのでしょう。この国は「秋津洲」をでっちあげて以来「ずっと」そうだったのではないか、とすら思います。そもそも「怒り」を感じないのか、「怒り」が内向してしまうのか、安倍政権の下で、格差社会は目に見えて拡大するばかりなのに、「怒り」が「爆発」しない国。私たち一人ひとりが主権者であることを忘れている国ではないかと思うのです。

豊かな恵み辺野古・大浦湾と埋立て工事のイメージ

私は、一九六九年、安保条約の一〇年間の効力終了期限を目前にした、「大学紛争」時代に入学しました。当時、市民には「抵抗権」「革命権」が認められるとの憲法学説を胸躍らせて読んだものです。政府権力の濫用などによって立憲主義憲法秩序が重大な危険にさらされ、人権の行使が一般的に妨げられる状況においては、市民は「抵抗権」さらに「革命権」の行使が認められると。ジョン・ロックは「抵抗権」を「自然権」の一つとして主張し、アメリカ独立戦争、フランス革命の理論的根拠とされたのでした。

「抵抗権」行使の本質

今、この国で「抵抗権」を行使しているのは沖縄だけです。翁長雄志さんは、「私たちには少なくとも『主張する権利』があります。これは人間の誇りと尊厳をかけた戦いでもあるのです。」（傍点は五十嵐）と述べています（『戦う民意』、角川書店）。「抵抗権」

花鳥風月

一九四八年の福井地震から一九九五年の阪神・淡路大震災まで死者が二〇〇〇人を超える巨大地震は発生していなかった。世界の地震の一〇％が日本で起きているが、半世紀近くこのような大地震の発生はなかった▼二〇〇七年能登半島沖地震、二〇一一年の東日本大震災、二〇一六年の熊本地震、今また北海道胆振東部地震が発生し自然災害の脅威を目の当たりにしている。阪神・淡路大震災以降、震度六以上の地震は五二回発生している▼震度は〇から七まであり、震度五と六だけに強と弱がある。従って一〇階級になっている▼気象庁の震度階級には地震の最大震度は七であり、七以上はない。例えば六から六・五までの震度は「六強」となり、六・五以上は震度七となる、それ以上どれだけ強い地震でも七と発表される▼能登地区は一七二九年から二〇〇七年の能登半島沖地震までM五・七～七・〇の地震が六回発生し、その内、三回が輪島市門前と志賀町高浜の間で発生している。原子炉真下に活断層が走る志賀原発は廃炉しかないでしょう▼巨大地震多発時代と認識しよう。（平）

の本質を見事に言い当てています。

本土では「抵抗権」はすっかり死語になってしまった、否、「ずっとそうだったのではないか」。「薩摩侵攻（島津侵略）」とはいうが、「前田侵略」とはいわない。それどころか、一向一揆のあったこの地で、被侵略者の末裔が侵略者を大歓迎する「祭り」が行われる。「武士（サムライ）」人口はたったの五％前後、ほとんどの民衆は支配と搾取の対象であったのに、「サムライ」だと思いこんでいる（思いこみたい？）倒錯した心性（大いなる誤解）。確かに、明治期以降にも、自由民権運動、米騒動など民衆が自由、解放を求めて立ち上がったことも、また労働争議が闘われました。この国のいたるところで、過去も現在も、日本国憲法を活かし、民主主義の確立を求めて、日夜地道に活動をされている多くの人々がいます。しかし、この国で、市民が自らの手で民主主義を勝ち取ったことはありませんでした。

沖縄から吹く日本変革の「風」

この国の現状は、再度、翁長さんの言を借りれば、「辺野古から、沖縄から日本を変える」ことでしか希望を見出せないのではないか。翁長さんは、「辺野古に新基地はつくらせない」という主張を象徴として、政治の大きな変革の原点をつくっていくことが、沖縄、日本の変革につながり、真の民主主義を確立することにつながるはずだと語っています。それはたんなる「希望」ではなく、確固とした「信念」です。私たちは、翁長さんの信念、遺志をしっかり受け止めなければなりません。そうした変革は、一見迂遠に見えて、沖縄知事選で玉城デニー候補を大勝させることで、安倍政権に大打撃を与え、一気にこの国全体に政治変革の大きな「風」を吹かせることにつながる、つながらせることで生み出されるでしょう。目取真俊氏は、日本政府は県知事選後「抗議する市民に襲いかかってくる。日本全体の安全のために沖縄の皆さんは我慢してください」と、ヤマトゥに住むあなたは高みから見物するのだろうか」と私たちに鋭く問いかけます（「九三〇に問われるのは誰か」『世界』二〇一八年一〇月号）。

さて、九月二〇日には自民党の総裁選が、九月三〇日は沖縄の県知事選が行われます。国政においては、現在の自公政権の早期退場を願うばかりですが、まずは戦後最悪の「安倍独裁政権」を倒さなければなりません。白井聡氏は、「安倍政権が消え去ったところで、社会と個人の劣化が自動的に止まるわけではない」と、「安倍政権が継続するか否かなど、些細な問題である」と指摘します（『国体論―菊と星条旗』集英社新書）。しかし、私たちにとっては、決して「些細な問題」ではありません。「戦う民意」は必ずや暴政を倒せることを確認する重要な意味を持つのです。

「戦う民意」は必ず暴政を倒す

翁長さんは、自ら辺野古新基地建設の承認を撤回することなく八月八日急逝されました。

本会報が皆さんの手に渡るときには、沖縄知事選がスタートしています。名護市長選で味を占めた自公は、すでに「争点隠し」、「デマとヘイト攻め」、「アメとムチ」など、あらゆる卑劣な陰謀、分断工作を始めています。沖縄知事選は、単に「辺野古新基地建設の是非」を問うものではなく、「人間の誇りと尊厳をかけた戦い」です。「戦う民意」で勝利し、自公政権に大打撃を与えなければなりません。統一地方選挙は、沖縄のみ時期が異なります。全国では四月、一九四七年四月に地方公共団体で一斉選挙が行われたのが始まり、沖縄では九月、一九五〇年九月、軍政府の布令によって一斉に議員選挙や首長選挙が行われたのが始まりです。

九月九日、多くの市町村で議会選挙の投開票が行われました。名護市市議選挙は、定数二六（一減）に対して与野党は一三対一三の痛み分けに終わりました。沖縄の二紙は、「辺野古移設に反対過半数」（琉球新報）、「名護市議選挙：与野党が拮抗　野党一減も辺野古反対は過半数」（沖縄タイムス）との見出しを掲げました。知事選を目前にして、投票率は六五・〇四％と、二〇一四年の前回（七〇・四〇％）を五・三六ポイント下回り、過去最低となったことが気になります。東村では、伊佐真次さんが議席を守りました。沖縄全体では、大きな変化は見られなかったようです。知事選は決して楽観を許しません。

翁長さんは、著書の中で、「私たちは確かに厳しい時代を生きているけれど、それでもなぜこれほど強い県民になったかというと、長い歴史の中で虐げられて、木の葉のように風に舞いながらも、自分のアイデンティティーを確かめながら生きてきたからだと思います」と述べ、「どんな難しい中でも・・・私たちの思い、私たちの存在をかけてやっていきます」と締めくくっています。私たちは決してあきらめません。

沖縄連帯石川県集会・講演要旨

平和で誇りある豊かな沖縄を

沖縄革新懇代表世話人　仲山忠克

講師の仲山忠克さん

翁長知事の逝去により、沖縄県知事選が九月一三日告示、三〇日投開票となった。この選挙の最大の争点は辺野古新基地の是非である。知事権限をどちらが握るかによって、辺野古の新基地が推進されるか、それとも断念か、その岐路に立っている。

現在、辺野古は沿岸部の護岸工事が終わり、今後は土砂を投入して埋立てを行なうことになっている。政府は一一月に予定されていた県知事選挙前に県民の中にあきらめムードをつくるため、八月一七日から埋立てを開始すると云っていた。しかし、翁長知事の急逝により、知事選が早まったため、選挙が終わるまで土砂投入を延期している。

大浦湾は超軟弱地盤
知事承認の設計変更が必要

彼らの戦略はすごいですね。この埋立て工事にいかに執念を持っているかが分かる。しかし、仮に現在の埋立て工事が完了しても新基地建設の一部にすぎない。

実は防衛省のボーリング調査により、大浦湾の水深三〇メートルのところからさらに地下四〇メートルまで超軟弱地盤が明らかになり、新たな護岸を接地して埋め立てる設計変更が必要である。しかもこの軟弱地盤には活断層が存在していることも専門家により指摘されている。その意味で新たな知事が設計変更を認めなければ埋立て工事は頓挫し、辺野古の新基地はできなくなる。そのことをマスコミは殆ど報道せずに、埋立てがおこなわれれば基地完成と同じと伝えているが、決してそうではない。そのため今度の知事選は非常に大きな意味を持っている。

安倍政権が指名した
知事候補は「争点隠し」

辺野古新基地をつくらせないという翁長知事の遺志を受けて、玉城デニーさんが立候補を表明された。相手は前宜野湾市長の佐喜真さん、彼を知事候補に推したのは官邸であり、安倍政権が指名した候補である。佐喜真陣営は今度の選挙の争点、辺野古新基地については全くふれていない。普天間基地は危険だから撤去すると云っているが、辺野古新基地建設への賛否は一切答えない「争点隠し」だ。

名護市長選挙でも「争点隠し」で自分達の候補を当選させた。その教訓から知事選でも同じ「争点隠し」をおこなっている。民主主義社会における選挙では、争点を明らかにして審判を仰ぐ、これが本来の選挙のあり方だ。その意味では彼らは民主主義を否定している。軍事基地をつくるということは、民主主義を否定しなければできないということを彼ら自身が明らかにしている。

彼らの必死さは公明党を抱き込み、維新の会を抱き込んだ。公明党沖縄県本部は辺野古新基地には反対であり、四年前の知事選では公明党は自主投票だった。しかし今回は佐喜真を推すことになった。公明党の限界だ。前回は一〇万票の差で勝利したが、公明票が動くと結果は分からない。まったくの激突、予断が許さない選挙である。

「軍隊は住民を守らない」が
沖縄戦の教訓

戦中戦後の沖縄は軍事力によって苦難の歴史を歩まされてきた。戦時中、沖縄では県民が根こそぎ動員され、戦場に駆り出され、四人に一人が犠牲になった。「軍隊は住民を守らない」が沖縄戦の教訓だ。

戦後、米軍の統治下におかれて沖縄県民は様々な事件でおびただしい犠牲を強いられた。辺野古新基地は二〇〇年の耐用年数がある。未来永劫に沖縄に軍事基地を縛り付けることになる新基地を阻止することは戦中、戦後の沖縄県民の苦難の歴史を脱却する方向を明らかにすると思う。翁長知事が話していた「平和で誇りある豊かな沖縄をつくる」、その大きな展望を開くことになる。

平和で誇りある豊かな沖縄をつくる

なぜ「誇りある豊かさ」なのか？これまで沖縄の経済は米軍基地に依存してきた経過がある。しかし、これは寄生経済であり、自立した経済ではない。「誇りある」というのは基地か

ら脱却して県民が自立した経済をつくるという意味である。米軍基地こそ沖縄経済の最大の阻害要因である。

「平和で誇りある豊かさ」を取り戻す、その第一歩が辺野古の新基地建設を断念させること。沖縄の未来にとって命運を決する選挙が、今度の県知事選挙である。

軍事基地はそもそも戦争するための基地である。軍事基地がなければ戦争はできない。辺野古の新基地を拒否することは戦争そのものを拒否することにつながる。安倍政権は「戦争する国づくり」に邁進している。その行きつく先が憲法九条改悪である。辺野古新基地を阻止することは「戦争する国づくり」の安倍政権の野望を封じることになる。その大きなきっかけとなり、わが国の平和にとって大きな意味を持つ。憲法九条は「軍事力によらないで、平和をつくろう」というのが基本的な考えである。〝軍事力による平和か、軍事力によらない平和か〟、その選択の機会でもある。知事選に勝利することにより、私は憲法九条が生きる社会をつくる、大きなスタートになると確信している。

かつて峠三吉という原爆詩人がいた。「にんげんのにんげんのよのあるかぎり、くずれぬへいわをへいわを」と訴えた。「くずれぬへいわ」とは何か？　軍事力のない平和、憲法九条が求める平和である。辺野古新基地を断念させることによって、わが国の平和の展望を切り開きたい。

わが国の平和と民主主義が問われる選挙

沖縄の知事選で勝利すれば、「市民と野党の共闘」を全国的に活発化でき、参院選に連動し、日本列島を変革する大きなスタートラインになる。日本の民主主義が問われる選挙である。沖縄県民の意志を圧殺して新基地をつくるという安倍政権は民主主義の敵対者である。それは安保条約を絶対視しているからだ。日米軍事同盟の発展・進化のために辺野古新基地が絶対に必要というのが彼らの立場だ。安保条約は民主主義の敵対物ということを証明している。

私は、沖縄・辺野古新基地阻止の闘争は民主主義の実践と思っている。一七七六年アメリカ独立宣言のなかに「人民の合意にもとづいて樹立された政府は、人民の権利に反したときには、人民にはその政府を改造又は廃止し、人民の安全と幸福をもたらす新たな権力を組織する権利と義務がある」と書かれている。二四〇年前のアメリカ独立宣言における歴史的出来事を、辺野古新基地を阻止することによってわが国で実現し、改めて民主主義の原点を確認したい。今度の選挙は沖縄だけの問題ではない。わが国の平和と民主主義が問われる選挙だ。

「社会の進歩と変革を希求する志に挫折はなく、それを推進する運動に停滞は許されない」

国民総ぐるみの運動でぜひ勝ちたい。勝たせていただきたい。

（非核・いしかわ編集部）

◎九月一日、石川県教育会館で開かれた「沖縄連帯石川県集会」の講演要旨です。主催は安保廃棄石川県実行委員会と石川革新懇です。

非核・平和のひろば

非核石川の会 三〇周年記念祝賀会の報告

〝非核の政府を求める石川の会〟結成三〇周年記念祝賀会が八月二三日にＫＫＲホテル金沢で開かれ、県原爆被災者友の会会長の西本多美子さん、同事務局長の池田治夫さんら賛同・友誼団体代表らが出席し、井上英夫・五十嵐正博両代表世話人ら役員と親しく歓談しました。

席上『三〇周年記念誌』の発行を祝するとともに、この一〇年の『原爆と人間展』など自治体での平和事業の大きな前進を喜び合い、本会の歴史的役割が増大していることを確かめあいました。昨年来の核兵器禁止条約の国連での採択やＩＣＡＮ（核兵器廃絶国際キャンペーン）のノーベル平和賞受賞などの歴史的進展なかで、近い将来わが国において、本来の目的である非核の政府を〝求める会〟を達成し、非核の政府を〝支える会〟に一刻も早く改めようという声に喝采があがる、とても楽しい会となりました。

40周年に向けて歓談した祝賀会参加者

すべての自治体で「原爆ポスター展」を

今年度は一九自治体で開催

平和首長会議は、二〇一七年～二〇二〇年行動計画にて「各加盟都市において、一人でも多くの市民に被爆の実相について理解を深めてもらい、核兵器廃絶への思いを強くしてもらうようにするため、原爆ポスターや被爆にまつわる資料等を展示する原爆ポスター展を開催する」ことを提唱しています。

この呼びかけに呼応して非核の政府を求める石川の会では、核兵器の非人道性、被爆の実相を次の世代に伝えるため、県内すべての自治体で「原爆ポスター展」が開催されるよう働きかけています。

本会が実施した「二〇一八年度平和事業に関する自治体アンケート」によると自治体主催で「原爆ポスター展」を開催したのは、昨年より三自治体増えて一三市町になりました。新たに三自治体（川北町、穴水町、能登町）増えたのは、本会も参加している平和行進石川県実行委員会が五月中旬にすべての全自治体を訪問し、日本被団協制作「原爆と人間」パネルの貸し出しも含めて提案し、了解いただいたものです。

川北町では五月に訪問した時、ポスター展の開催を見送られたが、その後「自治体アンケート」集約結果にもとづき本会から川北町長に直接働きかけて、開催が実現できました。

この外、石川県、小松市、羽咋市、かほく市、白山市、能美市の六自治体では、住民団体主催の「原爆と人間」パネル展に公共施設を提供しています。この結果、今年度は珠洲市以外の一九自治体で「原爆ポスター展」が開催されました。

本会では、引き続き県内すべての自治体での「原爆ポスター展」開催をめざして働きかけていきます。

（事務局長　神田順一）

2018年度「原爆ポスター展」の開催一覧

	自治体名	原爆ポスター展の開催日程	被団協パネル（有無）
0	石川県	8月2日～16日 石川県庁19階展望ロビー	住民団体主催
1	金沢市	7月31日～8月12日 玉川こども図書館2階交流ホール	有り
2	七尾市	8月3日～10日 フォーラム七尾	借用
3	小松市	8月6日～10日 小松市役所1階ロビー	住民団体主催
4	輪島市	清水正明医師の原爆被爆絵画展 （7月31日～8月6日、市内各中学校） （8月8日～16日、輪島市文化会館）	原爆被爆絵画
5	珠洲市		
6	加賀市	8月10日～17日 加賀市市民会館1階ロビー	有り
7	羽咋市	7月2日～9日 羽咋すこやかセンター	住民団体主催
8	かほく市	6月6日～24日 市の公共施設	住民団体主催
9	白山市	7月27日～29日、鶴来・クレイン 8月8日～12日、市民工房うるわし	住民団体主催
10	能美市	8月20日～22日 能美市役所市民ホール	住民団体主催
11	野々市市	8月14日～21日 学びの杜ののいちカレード	有り
12	川北町	8月21日～24日 川北町文化センター	被団協パネル借用
13	津幡町	8月1日～16日 津幡町役場内町民ふれあいコーナー	有り
14	内灘町	6月4日～15日 内灘町役場1階ロビー	有り
15	志賀町	8月3日～9日 志賀町役場町民ホール	有り
16	宝達志水町	6月1日～8日 宝達志水町役場ロビー	被団協パネル借用
17	中能登町	9月1日～17日 ふるさと創修館特別展示室	有り
18	穴水町	6月12日～22日 穴水町役場ロビー	被団協パネル借用
19	能登町	現在は未定だが、他イベント等との併催にて展示予定	有り

（注）2018年度平和事業に関する自治体アンケートより抜粋

八年目の福島フィールドツアー

「視る・聴く・心に刻む」

川本浩平

八月二八日～三〇日、むぎわらぼうしの会の『八年目の福島』を視るフィールドツアーに参加しました。今でも故郷へ帰れない人が七万人もいるという。マスコミの「〇〇ができた」「〇〇が開店しました」を聞くが、福島がどのように復興したのかこの目で確かめたいと思った。飯舘村の感想は別の機会に譲ります。

福島県環境創造センター

滝桜を見る余裕のコースも私の関心を引いたが、ツアーの三春町滞在の目的は福島県環境創造センターの見学であった。原発事故を直視せず、子どもたちの好奇心を煽り、新たな安全神話を担う危険な施設が復興予算で造られていた。

福島県環境創造センター
ウソを言わないが
真実も伝えない

浅田正文さん眞理子さん宅へ

都路村は合併で田村市になりました。フレコンがポチポチと見え隠れする中をバスは山道を登る。

樹木が多く、自然に囲まれた浅田宅。近くの山では松茸が採れるが食することができないという。

原発立地の大熊町

フレコンが連続して道淵や未耕作地に積み上げられており、すれ違う車は汚染土を運ぶトラックが多い。

自宅は自由に入れず管理者が解錠し、行動が監視？されている。九時～一六時の間。一日一回四時間内の滞在しかできないそうです。

通行止め、立ち入り禁止看板が多く町には人がいない。

避難するということは町や村がなくなることだと納得する。

原発の周りは嵩上げがあり、防潮堤ができ工事はされているが広大な空き地のままの状態が続いています。

なみえ創生小中学校

児童生徒数一〇人、先生一七人。学校の向かい側に立派な幼稚園もあるが、こちらも子どもの気配がなかった。

モニタリングポストの撤去

二七市町村が反対している中で環境省は設置場所の撤去・縮小を計画している。線量の監視・記録をせず避難区域の解除へ世論操作か。農作物の全量検査から抽出検査に切り替えも。安全・安心のよりどころがなくなります。

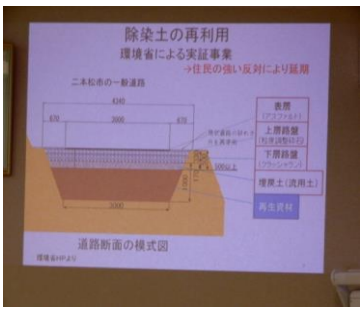
高校生の第一原発内の見学

当然ながら高レベル汚染をした。これは某教授の陰謀といわれています。

某教授は日本原子力産業協会ＨＰで遺伝的影響はないと述べているそうだ。七三一部隊の現代版？瞬間そう思った。怖い話です。

汚染土の再利用

環境省は汚染土を再利用する実証実験をすすめている。農業用土壌を花栽培用、道路建設の基礎部分の土盛に使用するとか、計画は進んでいます。



環境省の実証事業計画図
一番色濃い部分に再利用

復興って何？

避難指示解除や仮設住宅の供与終了などがあっても、自宅へ帰って生活ができる環境ではないと思いました。

復興って、ハコモノができ、町の体裁が整うことではない。個人に寄り添い、納得できる生活環境と補償があってのこと。難しいことだから、企業や国は環境を壊すことをしてはいけない。「復興の原点は人権尊重」だと思うフィールドツアーでした。

非核石川の会リレーエッセー

あの日から七三年目
白山市で「原爆と人間展」

宮岸美苗

今夏の「原爆と人間展」は、鶴来クレイン会場は七月二七日～二九日に新日本婦人の会主催で、松任会場は実行委員会主催で、市民工房うるわしで八月八日～一二日開催しました。以下、松任会場の報告です。

詩の朗読もおこなわれた松任会場

「原爆と人間」写真パネル四〇点（白山市所有）の他、本や写真集、絵本、「はだしのゲン」の漫画等々、また今回は加賀市在住の佐藤公男さんからお借りした沖縄の基地関連の写真パネルや貴重な資料も展示しました。他にDVDを気軽に観てもらえるコーナーや、平和の俳句を作って掲示できるコーナーなど設置。

特別企画として九日には、「ちちをかえせ、ははをかえせ」で始まる峠三吉の詩の朗読や、オカリナ演奏と朗読のコラボなど楽しみました。この朗読は、市内のある女性と偶然知り合い、「朗読が得意」とのことで昨年の開催からお世話になっています。

一一日は、八〇代の元教師のMさんにお願いして戦争体験を語って頂きました。学ぶべき時代に学べなかったこと、爆撃のこと・・・そして再び暗黒の時代に戻さないために安倍政治を終わらせようと語られました。

参加者からは、「とても良かった。若い人や子どもたちにこそ聞いてほしい。そんな取り組みを期待したい」「終戦を境に教育の内容が変わったことに戸惑いはなかったか」など感想や質問が多く出されました。

会場でヒバクシャ国際署名をして下さった方の「とてもいい企画だ。広島の資料館には遠くて行けないけど、ここには来れる。もっと多くの人に見てもらいたい」の言葉に私は衝撃を受けました。若い世代へのアプローチも含め、もっと広い対象に働きかけ、ともに取り組むものにしていかねば・・・大きな宿題をもらった今夏の開催でした。

詩人会議かなざわ「独標」より

ハルモニ・ハラバイ

山田　英美子

イムジン河の向こうに
愛しい人達がいる

イムジン河の向こうが
故郷　今も
そこに在る

イムジン河が隔てる　あの
深い流れが見える

日本は嫌い
日本人だからじゃない
日本という国が
辛い事を思い出させる

戦争は嫌い
二度と血の争いを見たくない

見せたくない　子や孫
愛しい者に

イムジン河が流れてゆく
故郷への想いが
風となって
水を渡る

橋の出来る日は　いつ
河を越した向こうが
故郷

重い霧と共に
大切な人達がいる

友よ
イムジン河が
流れる

《編集室より》

◎九月一日付の沖縄タイムスの故・翁長雄志前知事の妻・樹子さんへのインタビュー記事が胸を打つ。知事が最後の記者会見で「県民が諦めねば辺野古に基地は造れない。しょうがないとなれば、沖縄に基地を置かれたままになる。それでよいのか」と渾身の力を振り絞って語りきったことを、神に感謝したという。

それにしても絶対に許せないのは、国が「一般職員にも損害賠償を求める」と言い出したことだ。まさに恫喝である。知事はそれを許すわけにはいかないと立ち上がり、「あなたがやらないで誰がやるの」と記者会見に送り出した樹子さん。本当にお見事なお二人である。（中）

シリーズ 石川の地域点描 25

フォトグラファー　中西　優

暑さが厳しい時期から次第に秋の音が聞こえる残暑の時期に入ってきました。例年の台風シーズンを前に早くも大きな被害を出した台風二一号の被災地のみなさま、そして大地震で大きな被害を受けた北海道のみなさまにはお見舞い申し上げます。

これから本格的な秋に入り、紅葉やスポーツ、グルメなど楽しい時期に入る一方で、台風などの自然災害も予想される季節になります。日頃から災害への備えを進めておきましょう。

約一〇年ぶりに開催された花火大会＝小松市・木場潟公園

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班　竹味　恭子

（トピックス）

核兵器禁止条約の批准国は、九月四日にクック諸島が国連事務総長に加入書を寄託し、一五カ国となりました

非核・平和の掲示板

月	日	曜	時	内　容	
9	22	土	15:00	南の風～フェーぬ風に載せて　会沢芽美語り&うたごえ	金沢市香林坊・石川県教育会館2階
	23	日	14:00	会沢芽美コンサート　in　小松『命の海の話　今沖縄から』	小松市若杉町・彗星舎
	24	月・休	11:00	国連核廃絶デー「ヒバクシャ署名」行動	金沢市青草町・いちば館前
	24	月・休	13:30	核戦争を防止する石川医師の会 国連・核廃絶デー「被爆ピアノコンサート」	金沢市三社町・石川県女性センター・ホール
	29	土	13:30	原発をなくす石川県連絡会講演会　原自連幹事 三上 元さん 「自然エネルギーの推進へ・原発ゼロ基本法案の内容と意義」	金沢市香林坊・石川県教育会館3階ホール
10	3	水	12:50	怒りの昼デモ	金沢市香林坊・いしかわ四高記念公園教育会館前口
	7	日	13:00	社会保障シンポジウム 「私たちの社会保障　一緒に考えませんか？」横山壽一さん	金沢市高岡町・松ヶ枝福祉館4階集会室
	9	火	12:30	核兵器廃絶署名6・9行動	金沢市武蔵町・Mza前
	14	日	14:00	金沢紫金草合唱団18周年記念コンサート	南砺市北川・いなみ木彫りの里創遊館（道の駅井波）
	14	日	14:00	NPO法人「未来塾・大人の学び」 「米朝首脳会談と朝鮮半島情勢。そして日本の課題」平井久志さん	金沢市香林坊・石川県教育会館2階
	17	水	12:50	怒りの昼デモ	金沢市香林坊・いしかわ四高記念公園教育会館前口
	18	木	18:30	原発をなくす石川県連絡会総会 「8年目の福島」現地の写真を見ながら報告	金沢市青草町・近江町交流プラザ4階研修室
	20	土	14:00	福島原発刑事訴訟・全国報告会金沢会場　報告　武藤類子さん	金沢市青草町・近江町交流プラザ4階集会室
	21	日	10:00	原発・いのち・みらいシリーズ講演会「トモダチ作戦　兵士たちの放射線障害と裁判」講師　エイミー・ツジモトさん	金沢市青草町・近江町交流プラザ4階集会室
	31	水	12:50	怒りの昼デモ	金沢市香林坊・いしかわ四高記念公園教育会館前口
11	2	金	18:50	平和憲法公布72周年記念石川県民集会　講演・太田昌克さん 朝鮮半島の非核化と平和への道筋ー日米核同盟と揺れる憲法	金沢市尾山町・石川県文教会館ホール
	9	金	12:30	核兵器廃絶署名6・9行動	金沢市武蔵町・Mza前
	14	水	12:30	怒りの昼デモ	金沢市香林坊・いしかわ四高記念公園教育会館前口
	17	土	14:00	「おだやかな革命」佐藤弥右ェ門さんトーク&映画上映	金沢市香林坊・シネモンド

＊祝日は休日とします　＊毎週金曜日18：30どいね原発アピール行動 金沢駅兼六園口　＊毎月15日石川県沖縄連帯デー（8月15日は休宣）

＊会報「非核・いしかわ」のサポート会員を募集中。年間購読料は1，500円です。ご紹介をお願いします。